

＜文学と思想＞をめぐる国際シンポジウム

世界文学を創造する— ディアスポラ、トランスエスニシティ、言語葛藤

日時:2014年12月13日(土) 午後1時～5時
会場:明治大学駿河台キャンパス
リパティ・タワー 1086教室(8階)

概要:

近代の国民国家の形成と共に育まれてきた「国民文学」の枠組みが崩れてきている。そのことは、国民国家を単位としない、より大きな経済的グローバル化の流れと共に、複数言語のあいだを横断する越境作家・詩人の誕生と活躍を見れば明らかである。この国際シンポジウムでは、日本語圏、ドイツ語圏を含む、世界各地で誕生しつつある「世界文学」を取りあげ、それらにどのような共通の特徴が見られるのか、ディアスポラ(離散)、トランスエスニシティ、言語葛藤の観点から考察する。そうすることによって、狭隘なナショナリズムと結び易い「国民文学」の特異性ではなく、「世界文学」の普遍性を導き出す。

予約不要

聴講無料

基調講演 午後1時～2時10分

講師:クリスティーネ・イワノヴィッチ教授(ウィーン大学)

「ディアスポラから出て:翻訳を通して世界文学を創造する」

Out of the Diaspora: Creating the World Literature through Translation

シンポジウム 午後2時20分～5時

講師:合田正人教授(明治大学)「デリダと言語の不安」

講師:リディア・ミッシュクルニク講師(ウィーン造形芸術大)「水道栓文学:分類化の挽歌」

講師:レオポルド・フェダーマイヤー教授(広島大学)「ドイツのロシア作家」

講師(司会):越川芳明教授(明治大学)「目取真俊のウチナー口:沖縄文学と世界文学」

ディスカサント:土屋勝彦教授(名古屋市立大学)